

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）中間評価結果

大学名	東京大学
タイプ	B-I
構想名	巨大複雑システム統括エンジニア育成に向けた国際協働教育プログラムの創出

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本プログラムは、欧米の著名大学との連携を強化することにより、世界規模で活躍することができる、工学に従事する人材の統括力育成を協働して実施することを目的としている。事業目的の達成に向けて、大学の長期的な国際戦略に沿って構築されており、多層的かつ多面的な国際交流事業を有機的に統合する形で実施されている。その運営に際しては、Deans Forum の開催に象徴されるような連携大学の部局の長による合意形成とともに、教職員全体で計画の推進に当たる姿勢が打ち出されている点で意欲的なプログラムと認められる。</p> <p>交流プログラムの枠組み形成に関しては、おおむね計画どおり順調に進められており、外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備等も順調に推移していると評価できる。</p> <p>一方で、質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成に関しては、まだ具体的な内容が不足していると感じられる。中間評価時点では、東京大学と各相手大学との交流協定に基づく2校間でのプログラムが個々に並行して運用されるにとどまっており、本プログラムが目指している「協働教育」を実現するためには、より一層の努力が望まれる。</p> <p>数値目標の達成状況の観点から、派遣学生数については数値目標を大幅に上回っているものの、受入学生数については数値目標を下回っており、数値目標の達成に向けて工夫が望まれる。また、派遣学生のうち大きな割合を占めているワークショップ等の研究集会へ参加した学生に対して、より実質的な長期派遣のプログラムへの参加を促すような道筋の整備も期待される。</p> <p>以上、事業目的は一部順調に達成されているものの、より実質を伴うような展開も求められる。国際的な基準での質保証の枠組みを構築する機会と捉え、より意欲的に取り組むことが望まれる。</p>	